

平成 23 年 10 月 6 日

都内私立中学校高等学校
校 長 殿
国際理解教育担当教諭 殿
関係教職員 殿

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会
会 長 近藤 彰郎
東京私学教育研究所長 清水 哲雄
国際理解教育研究会委員長 須藤 勉
(共催：公益財団法人 東京都私学財団)

国際理解教育研究会「講演会」のご案内 東日本大震災 ～ 震災から世界へ伝えられること ～

錦秋の候、先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

3.11 東日本大震災後、世界各国からの支援や励ましは、たいへんありがたいものでした。私たちは、これからも震災の状況や復興の様子などを共有し、世界へ向けて発信していく必要性があります。

そこで、今回ノンフィクション作家の石井光太氏をお迎えして、被災地における取材内容に関するご講演をいただくこととなりました。

校務ご多忙の折とは存じますが、教科を問わず多くの先生方にご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 23 年 11 月 8 日（火）午後 6 時～7 時 30 分（質疑応答の時間を含む）
2. 会 場 アルカディア市ヶ谷（私学会館）会議室 ※案内図参照
〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 TEL: 03-3261-9921
3. 演 題 「東日本大震災 ～ 震災から世界へ伝えられること ～」
4. 講 師 ノンフィクション作家 石井 光太 氏

【プロフィール】1977（昭和 52）年、東京生れ。日本大学芸術学部文芸学科卒業。国内外の文化、歴史、医療などをテーマに取材、執筆活動を行っている。

著書に、アジアの障害者や物乞いに取材した『物乞う仏陀』、イスラーム世界の売春や性の姿を浮き彫りにした『神の棄てた裸体』、世界各国の貧困地域の実態を追った『絶対貧困』、HIV 感染者の現実を克明に追った『感染宣告』、インドの商都ムンバイで生きる最貧困層の子供たちの人生を捉えた『レンタルチャイルド』など著書は多数に上る。

東日本大震災は、震災直後から取材を重ね、週刊誌や月刊誌などに多く寄稿。2011 年 10 月 27 日岩手県の被災地の一つ釜石市の遺体安置所で働く人々に光を当て、遺体捜査から検死、歯型確認、そして埋葬までを事細かに追った『遺体—震災、津波の果てに』（新潮社）を発売した。

5. 定員 70名 (定員になり次第、受付を締めきります)

6. 参加費 無料 ※本研究会は、当協会会員校の拠出金、および公益財団法人東京都私学財団からの助成金によって運営されております。

7. 申込方法 11月4日(金)までに、WEB、FAX 又は郵送にてお申込み下さい。
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 4階
東京私学教育研究所 国際理解教育研究会 担当：岡沢、灰垣
TEL 03 (3263) 0544 FAX 03 (3263) 0560
<http://k.tokyoshigaku.com>

【会場案内図】 JR線・地下鉄(有楽町線・新宿線・南北線)市ヶ谷駅から 徒歩2分



国際理解教育研究会「講演会」参加申込書

—平成23年11月8日(火)実施—

学校名	氏名
☆今回の講演に関して、ご質問やお聞きしたいことなどございましたら、ご記入下さい。	

東京私学教育研究所 御中

平成23年 月 日

校長 ⑩

※FAX受理、受付完了等の連絡は省略致します。(本申込書をお送りいただいた時点で受付完了です)
申込確認が必要な方は、下記にご記入下さい。後日、申込書受理書をFAXでお送りします

・希望する

理由等	FAX番号:
-----	--------